

氏名	河 西 葉 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3111号
学位授与の日付	平成9年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	脈絡膜循環障害に関する臨床的研究
論文審査委員	中心性漿液性脈絡網膜症と脈絡膜循環障害の関連について 教授 増田 游 教授 松井 秀樹 教授 大本 堯史

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

中心性漿液性脈絡網膜症(CSC)と脈絡膜循環障害の関連を検討するため1985年1月より1990年12月までのフルオレセイン蛍光造影写真を後向きに検討した。脈絡膜循環障害の型は2つに分けた。1型は網膜静脈相後期まで脈絡膜充盈遅延のみられたものとした。2型は網膜静脈相後期まで脈絡膜背景蛍光にモザイク模様がみられたものとした。対照は性と年齢を可能な限りマッチングさせた網膜静脈分岐閉塞症(BRV0)の健常部とした。CSCは126例126眼で、1型は3眼(2.4%), 2型は57眼(45.2%), 計60眼(47.6%)であった。BRV0は63例63眼で、1型は0眼(0%), 2型は8眼(12.7%), 計8眼(12.7%)であった。2型においてCSCがBRV0に比べ頻度が高く有意差を認めた($p<0.01$)。CSCの発生には脈絡膜循環障害が関与していることが示され、2型のモザイク模様は脈絡膜循環障害を示す新しい循環障害型と考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、中年男子の片眼に好発し、黄斑部の漿液性限局性網膜剥離を起こす、中心性漿液性脈絡膜症と、脈絡膜循環障害の関連を検討すべく、1985年1月から5年間の、当科フルオレセイン蛍光造影写真を、retrospectiveにみた。対象例数は126例126眼であり、循環障害を2型に分けると、網膜静脈相後期まで脈絡膜充盈遅延のみられるものをⅠ型、後期まで脈絡膜背景蛍光にモザイク模様がみられるものをⅡ型として検討、対照を網膜静脈分岐閉塞症の健常部とすると、対象群でⅠ型2.4%、Ⅱ型45.2%、計60眼(47.6%)であり、対照群では、63例63眼で、Ⅰ型0%、Ⅱ型12.7%、計8眼(12.7%)であった。Ⅱ型において、中心性漿液性脈絡膜症の方が、対照群に比べて頻度が有意に高く、疾患の発生には脈絡膜循環障害が関与していることが示唆された。またⅡ型のモザイク模様は、脈絡膜循環障害を示す新しい型と考えられた。以上より、本研究は、本疾患と脈絡膜循環障害の関連を示す貴重な業績であり、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認めた。